

「モリトミライ」体験1万人突破

# 森への関心全国に拡大

山梨日日新聞社が作成したカードゲーム「moritomirai（モリトミライ）」の体験者が1万人を突破した。森林資源の持続的な活用に向け必要な行動を学ぶことをテーマに開発されたゲームで、学校や企業研修などで役立てられている。体験会の参加者からは「森への関心が高まった」との声が上がっている。

〈戸松優〉



話し合いながらカードゲームを進める児童

＝身延・下山小

モリトミライは2023年3月21日にリリース。森の荒廃や林業従事者の減少が課題となる中、楽しみながら森林の現状や持続的活用について学び考えるツールとして、小学校高学年から大人まで幅広い年齢層の利用を想定している。昨年12月末までに全国278の学校、自治体、企業で導入され、1万83人が体験。このうち山梨県内での体験者は3574人で、全国にも利用が広がっている。

今月23日には身延・下山小で体験会が開かれ、4～6年生45人が参加。モリトミライ公認ファシリテーターの田中美さんが進行役を務め、児童が2、3人で1グループをつくり、「木を切る人」「山の所有者」「森林組合」など10の役割のうちの1つを担当。「森

への愛情」「林業の経済力」など森林の現状を示す四つのメーターに配慮しながら、設定された資金の獲得などのゴールを目指した。

5年の依田達貴さんは「災

害を防ぐなど森の役割が分かった」と感想。4年の若林拓叶さんは「ゴールを達成するのは難しかったが、森の未来を考えるきっかけになった」と話した。

掲載日：2026年1月30日／各地／紙面頁24

紙面・記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用はお断りします。Copyright 山梨日日新聞社